

令和5年1月14日

令和4年度 第6回西宮市民ファミリーハイキング事業報告

奥アンツーカ（株）

【実施日時】 令和4年12月8日(木) 10:00～13:00

【実施概要・コース】

今回は、紅葉が最後に楽しめる時期を見計らって京都を訪れました。当日は、12月にしてはやや暖かく感じられるお天気で、18名が参加しました。

まず、京阪神宮丸太町駅付近の鴨川公園で諸注意後、出発。琵琶湖疎水（鴨東運河）沿いを通り、疎水が作られた時に建設されたレンガ造りの夷川発電所などを見ながら、平安神宮に向かいました。



見どころ1 琵琶湖疎水

明治維新による東京遷都のために沈みきった京都に活力を呼び戻すため、第3代京都府知事となった北垣国道は、琵琶湖疎水の建設により、水力で新しい工場を興し、舟で物資の行き来を盛んにしようと計画し、明治18（1885）年に琵琶湖疎水の建設に着工しました。

第1トンネルは長さが2,436メートルもあり、れんがも自前で生産し、ほとんど人力だけの難工事でしたが、着工から5年後の明治23（1890）年に完成しました。水力発電を採用したおかげで、新しい工場が生まれ、路面電車も走り出し、京都は活力を取り戻しました。

それから20年後、更に第2疎水を建設し、同時に水道と市営電車を開業したことで、今日の京都のまちづくりの基礎ができあがりました。琵琶湖疎水は、今も京都に琵琶湖の水を供給し続け、京都にまさしく命の水をもたらしてくれています。

（参考：京都市上下水道局 HP <https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000007153.html>）



平安神宮では、応天門をくぐり、広大な境内に入り参拝しました。

見どころ2 平安神宮

平安神宮は平安遷都 1100 年を記念して、桓武・孝明天皇を祭神として、明治 28(1895)年に創建されました。平安京大内裏の正庁を模した応天門、大極殿など朱塗りの建築が美しく、また、神苑（名勝）は約 3 万平方メートルの池泉回遊式庭園で、東、中、西、南の 4 苑にわかれ、それぞれの四季の花が見事です。

（参考：京都観光オフィシャルサイト京都観光 Navi

<http://www.heianjingu.or.jp/shrine/heianjingu.html>）

続いて、時代劇のロケ地としても有名な金戒光明寺に向かいました。紅葉シーズンを終わった直後という日であったため、本堂などを参拝することもできました。





見どころ3 金戒光明寺～浄土宗最初の寺院～

金戒光明寺は、15歳で比叡山に登った法然上人が承安5(1175)年、43歳の時に創建したものです。この金戒光明寺の建つ紫雲山(黒谷)の丘は、東の崖が険しく、西のゆるやかな傾斜地に本坊から山内寺院、墓までが整然と建ちなっています。また、一万基をこえる墓碑はその殆んどが西向きで建てられています。これは、ここ紫雲山の場所が、彼岸の中日のころ、黒谷の西2kmに京都御所、更に西10km余の小倉山を経て、真赤な夕陽が静かに沈むのが拝める京都盆地唯一の場となっており、春秋の彼岸に、夕日を拝んで仏を觀る日想觀と関係しています。



この金戒光明寺は、山門、阿弥陀堂、本堂など18もの塔頭寺院が建ち並び、幕末には、京都守護職の会津藩一千名の本陣にもなりました。境内には、『會津藩殉難者墓地』があり、文久2年～慶応3年の5年間に亡くなった237霊と鳥羽伏見の戦いの戦死者115霊を祀る慰霊碑(明治40年建立)があります。

(参考：金戒光明寺HP <https://www.kurodani.jp/about/>)

その後、隠れた紅葉の名所といわれる真正極楽寺真如堂を訪れ、紅葉した落ち葉が降り積もる境内を散策しました。12月初旬とはいえ、赤く紅葉した木々が見せる景色は、さすが紅葉の名所と言う風情でした。



見どころ4 真正極楽寺(真如堂)

真如堂は、正式には鈴聲山真正極楽寺(れいしょうざん しんしょうごくらくじ)といい、永観2(984)年に戒算上人が開創した、比叡山延暦寺を本山とする天台宗のお寺です。「極楽寺と名乗る寺は多いが、ここが正真正銘の極楽の霊地」という意味を含めて名づけられ、その本堂を表す「真如堂」が通称として定着しました。

また、広い境内は紅葉の名所として親しまれており、桜や青もみじ、季節の草花による彩りも美しく、一年を通じて散策を楽しむことができます。江戸時代に再建された天台様式の本堂(重要文化財)や三重塔などの建造物、阿弥陀如来立像をはじめとした仏像・文化財を数多く所蔵しています。

●京都映画誕生の碑

本堂のそばに「京都映画誕生の碑」と刻まれた石碑があります。2008年、「京都・映画100年宣言」プロジェクト推進協議会の呼びかけにより、吉永小百合さんや田村正和さんなどの映画関係者を中心とした81人の寄付で建立されました。

京都生まれて「日本映画の父」として日本映画の創世記を築いた牧野省三が、1908年にシネマトグラフを用いて撮影した初の劇映画『本能寺合戦』の舞台となったのが真如堂の境内でした。この地で、日本の映画文化が誕生したのです。(参考：真如堂HP <https://shin-nyo-do.jp/about/>)

最後に、哲学の道を経て法然院を訪れました。静まりかえった境内で、終り紅葉に心洗われる風情を感じた後、哲学の道に再び戻って、銀閣寺前までの延べ約5.3kmを全員完歩しハイキングは無事終了しました。



見どころ5 法然院

「法然院」はその名の通り鎌倉時代初期に活躍し、専修念仏で知られる法然上人ゆかりの寺です。法然はあることが原因で後鳥羽上皇の怒りを買って師弟ともども罪人となってしまうのですが、四国に流罪（弟子は死罪）となっている間に荒廃してしまった法然の草庵を、江戸時代になって知恩院の和尚とその弟子が念佛道場として伽藍を作り復興させたのが法然院の始まりです。

●白砂壇(びやくさだん)

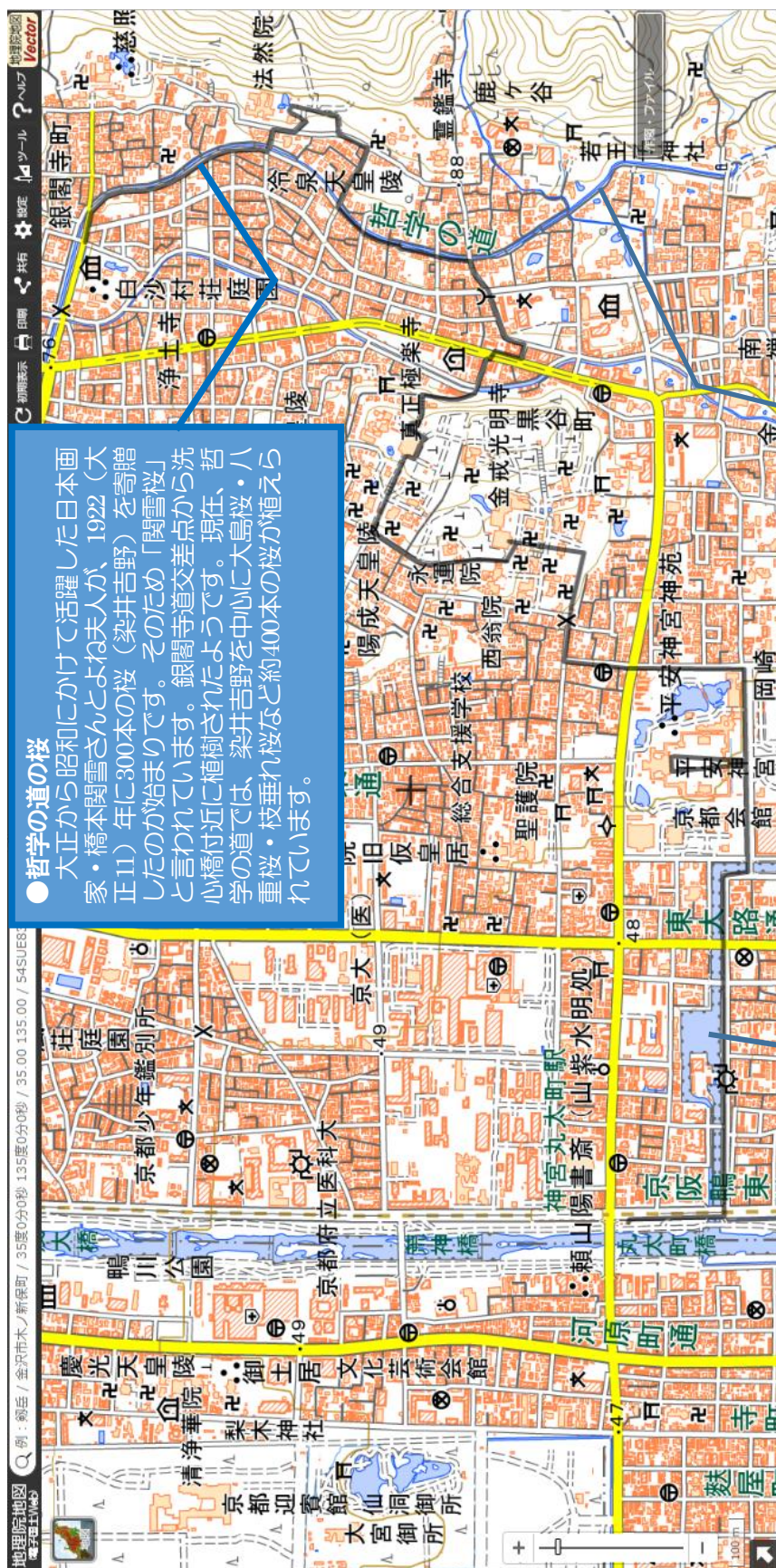
山門を入ると、両側に白い盛り砂があります。これは、水を表わす砂壇の間をすることで、心身を清めて浄域に入ることの意味しています。

(参考：法然院 HP <http://www.honen-in.jp/HONEN-IN-001.html#A>)



令和4年度 第6回ハイキング(平安神宮・金戒光明寺・真如堂・法然院・哲学の道)の行程図

(地理院地図より)



● 哲学の道

1890（明治23）年に第1疏水と同時に琵琶湖疏水分線（びわこそすいぶんせん）が完成しました。現在の疏水分線は、第1・2疏水合流点の蹴上（けあげ）から南禅寺水路閣の上を通り浄土寺橋（銀閣寺道交差点）までの全長3.3kmの疏水です。このうちの若王子橋（にゃくおうじばし）から浄土寺橋までの疏水にそった小道、約2kmを「哲学の道」と呼んでいます。沿道の桜並木はみごとで、春や紅葉の秋は多くの観光客でにぎわいます。1987（昭和62）年「日本の道百選」にも選ばれています。

● 夷川発電所・夷川船溜

平安神宮へ行くまでに水路の横を通りますが、この水路は琵琶湖疎水が鴨川に注ぐ場所で、白川放水路と呼ばれています。途中のレンガ造りの建物は、疎水完成時に建設された夷川水力発電所です。

その先の平安神宮よりの水路が広くなった場所は夷川船溜で、疎水が舟運に利用されていた頃のものです。